

特集 APOC / AsOC2008in 韓国

2008年7月25-30日 韓国ソウル市近郊

村越 真 番場洋子
写真 上林弘敏 村越真

第15回、そして最後のAPOCと併催のアジア選手権(AsOC:エイソック)が、7月25日から30日にかけて、韓国の首都ソウル市とその近郊で行なわれた。

これまでも日韓の交流はあったが、オリエンテーリングの国際社会にはほとんど出たことのない韓国。その韓国が初めてのIOF認定の地域選手権を開催し、そして日韓とも太い交流の端緒が生まれた。この歴史的イベントを、経緯、参加者の声、運営支援者の裏話で紹介しよう。



アジア選手権ロングを制し、2冠になった番場選手。この後ミドルも制して3冠に。

女子個人3冠 番場洋子

番場洋子

チェコでは2ヶ月現地で練習を積んだ中国チームに力の差を見せ付けられましたが、日本に似た地形韓国では勝てるかもしれない、もう一度戦いたい、という想いで向かった韓国でした。

残念ながら初日に中国チームが来ないことを知り、とてもがっかりし、初戦スプリントと二日目のロングでは、気の抜けた走りをしてしまいました。しかし、今シーズン最後のレースがこれでいいのか？と気合を入れなおし、ミドルは自分でも満足できる内容で走ることが出来ました。

3冠というタイトルには満足しています。ただ、名実ともにアジア一番になったという意識はありません。今後、

アジア選手権がすべての選手にとって、プライオリティが高い大会になってくれることを期待しています。数年後、全種目優勝の人がいるよ～とびっくりされるように。

最後に、今回の何よりのモチベーションは、韓国にいらっしやっていた参加者のみなさまや、必死で運営されていた運営者のみなさまの応援、「よかった～勝ったね」といって、喜んでいただけることでした。応援あつての競技生活だと最近しみじみ思います。ありがとうございました。

(番場洋子)



各国の子どもから年輩の選手まで、韓国の森を楽しんだ。



選手権クラスこそ日本が「圧勝」したが、ジュニアクラスでは香港や中国等が表彰台を占めた。若い力が育ちつつある。



IOF 副会長のカメロン氏より韓国のド会長に記念のフラッグが渡された。



女子のアジア選手権国別順位で1位になった日本。世界選手権で大活躍を見せた中国はトップ選手が参加できず3位。2位はカザフスタン。4位は台湾の順。